



板四小と板五中 心ゆたかな学びのエリア 令和7年度

学校の窓 12月号

板橋区立板橋第四小学校

HP <http://www.ita.ed.jp/edu/ita4es/>

e-mail ita4es@ita.ed.jp

全力！協力！心に響け みんなの音楽♪

(令和7年度 音楽会スローガンより)

副校長 福田 真理

職員室で仕事をしていると、廊下から「ミミミミミミレド～♪」階名を歌いながら校庭に向かう子どもの声が聞こえてきます。校舎のあちらこちらからも、クラスで練習する歌声が響いてきます。

もうすぐ音楽会。今年の秋はインフルエンザの流行が早く訪れ、度重なる学級閉鎖により、予定どおりに練習が進まない状況も見られました。しかし、どの学年も子どもたちは本番に向けて一生懸命練習に取り組んでいます。

近年、音楽の練習にも時代の変化を感じています。タブレットの登場です。音楽専科や担任の模範演奏による動画配信は、自分に必要な練習を、必要な時に、必要な分だけ選び、取り組むことができます。初めは抵抗感も感じましたが、音楽を楽しみながら自分のペースに合わせて練習している様子を見ると、子どもたちにとっても指導する側にとってもよいものだと思うようになりました。

学校は、各校の教育課程に基づいて日々の学習が行われています。各学年で学ぶ内容や標準的な時数は学習指導要領で定められており、音楽の学習に使うことができる時間も必然的に限られます。他教科・他領域の学習も通常どおり行わなくてはなりません。そのような条件の中で音楽会の練習に取り組むことには、なかなか難しいものがあります。私がまだ若手教員だった頃は、今よりも行事に時間や労力を費やすことができていたようにも感じますが、当時と比べると、今は時代に合わせて教科や学習内容が多様化しています。限られた時間の中で練習することが、子どもにも指導者にも求められています。このような時代背景を考えると、タブレットの登場は技術の習得にとっても役立っていると思います。

一つの作品を仕上げるためには、技術の習得や向上だけではなく、思いを表現することや全体のバランスを調整することも大切な要素となります。担当する楽器や役割が自分の希望どおりにならなかった人もいます。しかし挑戦する気持ちや取り組む姿勢にこそ、学びがあります。子どもたちは自分が担当する楽器や役割を考えたり感じ取ったりしながら、全体で合わせる練習に取り組んでいます。これは一人ではできないことです。一緒に演奏する仲間がいるからこそできる学びです。代表委員会の児童が中心となって作成したスローガンにも「みんなの音楽」というワードが入っています。音楽会は、日頃の学習成果の発表の場です。ぜひ、本番に至るまでの過程や努力にも思いを馳せて鑑賞していただけると幸いです。

少し時間は過ぎますが、2学期、6年生は金管パレードで見事な演奏を披露してくれました。9月の地域でのおまつり、10月の区民まつり、11月の学校公開。回を重ねるごとに音や動きに磨きがかかり、とても頼もしく、迫力ある演奏・演技となっていきました。一方で、音楽会のための練習時間は多くは取れませんでした。しかし、本番を直前に控えた今、体育館からは迫力とまとまりのある音が聞こえてきます。金管パレードを通して身に付けた音楽の力を感じました。

今回の音楽会は、児童鑑賞日を2日間に分け、保護者鑑賞日と合わせて3日間行われます。本番が3回あることとなりますが、その中でも子どもたちにとって一番楽しみなのは、保護者鑑賞日だと思います。ご多用の折かと存じますが、ぜひご来場いただき、子どもたちの努力の結晶である歌声と演奏をお楽しみください。この日を迎えるにあたり、子どもたちを温かく見守り、励ましてくださったご家庭および地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。